

ゼフ卵の冬季室内保管法

作成：2018.12.15 仲西周二



全般

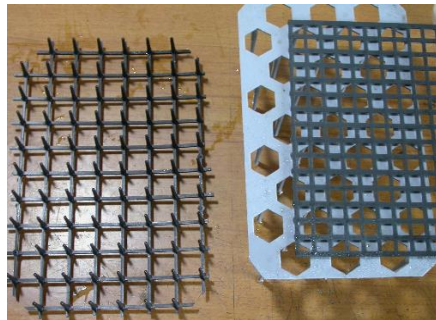
ゼフィルス卵などの冬季保管を目的とした、容器を使用した室内保管法を紹介する。液体の水に濡らさず、空中の水分（湿度）を保持することが要点で、カビの抑制と乾燥防止の両立を図る点にある。濡れずに高湿度を保持する環境は、積雪中の保管をイメージしている。越冬卵のみならず越冬蛹保管にも成績がよい。

装置

背高のタッパーを容器として用いる。私の常用は小型：縦 15×横 11×高 14 cm、大型：縦 22×横 16×高 17 cm（食パン保管用）のプラスチック容器で蓋付きである。蓋には適当数の通気孔を開けておく。



内部には園芸用の猫除け（プラスチック製の格子で片面に多数の長い脚（突起）が出ている）2枚を



突起が外に向くように背中合わせにして挿入する。容器底に水を張り、下の猫除け上部が水面上に出ている状態とする。当然上の猫除けは水から離れて保持（重要！）され、ここに卵など保管物を置く。濡れが心配な場合は 2 枚の猫除けの間に更にスペーサーを追加すると良いが、上下の空気流を遮断しない格子状物が望ましい。また、プラスチック素材でも水をはじかないものは使えない。

使用方法

* 卵など保管対象物はティッシュで軽く包み、上の猫除けの脚の間に挟んで保持する。器壁や蓋にティッシュが触れると濡れる恐れがあるので必ず離しておく。内容物を示すラベ

ルが見えるように配置すると使いやすい。ティッシュ包み同士の間は隙間を空けて（密に並べない）、包みの外側が常に湿潤空気に覆われるように留意する。

* 蓋の通気口は器壁や蓋に水滴が付かない程度にテープで塞いで、内部湿度を高く維持する。暖かい室内で容器を開閉後に冷蔵庫に戻した時など、凝縮水滴が付かないように留意したい。逆に乾燥し過ぎは最悪なので、保管開始当初は僅かに器壁に水滴が出来る程度を目安に、通気口を幾つかテープで塞いで調整すると良い。底の水位は適宜監視して不足すれば補給するが、実績では保管期間を通じて1~2回の補給で済んでいる。

* 装置の置き場所は、私の場合6月~9月頃までは室内北側の低温場所、10月頃から冷蔵庫に收容することが多い。冬季間だけでなく夏場の保管にも利用できて便利である。冷蔵庫の庫内温度は3~4℃程度が普通だが、私は1月末ごろから2℃程度に庫内温度を下げている。予期せぬ庫内孵化や春先に多いカビの発生を抑制するためである。長く保管する場合など、例えば1回/2ヶ月など適当な頻度で卵を点検する。カビがあればティッシュで拭き取ったり筆で掃き落とし、カビが酷ければ蓋の通気口のテープを除いて湿度を下げる。逆にカビがなく枝も乾燥気味と感じれば、通気口を塞いで湿度を上げる。

実績

越冬卵：ゼフィルス各種、リンゴシジミ、アサマシジミなどで好成績。

越冬蛹：地上に降りて越冬する種類（オオルリシジミ、カバイロシジミ、スギタニルリシジミなど）で好成績。

越冬幼虫：オオムラサキ、コムラサキなどで短期保管は問題なし。通期保管実績はない。